

令和5年度 大津市立伊香立中学校いじめ防止基本方針

はじめに

2011年（平成23年）の市内中学生が自ら命を絶たれた痛ましい事案以降、このような悲しみを再び繰り返してはならないという強い決意のもと、伊香立中学校においては、いじめ防止対策推進法（以下「法」といいます）、大津市子どものいじめの防止に関する条例（以下「条例」といいます）、大津市いじめの防止に関する行動計画に基づき、いじめの「未然防止」「早期発見」「早期対処」を柱に、いじめ問題に対する対策を進めてきました。

条例には、以下のような基本理念が定められています。

「全ての子どもは、かけがえのない存在であり、一人一人の心と体は大切にされなければなりません。子どもの心と体に深刻な被害をもたらすいじめは、子どもの尊厳を脅かし、基本的人権を侵害するものです。しかしながら、いじめはいつでもどこにおいても起こりうると同時に、どの子どももいじめの対象として被害者にも加害者にもなり得ることがあります。このようないじめを防止し、次代を担う子どもが健やかに成長し、安心して学ぶことができる環境を整えることは、全ての市民の役割であり責務です。」

この基本理念に則り、伊香立中学校では、過去の反省を忘れることなく、子どもの声や主体性を大切にしながら、地域社会全体で、いじめ対策に取り組んでいくことが重要であると考え、本校のいじめ防止基本方針を定めました。

全ての子どもたちが安心・安全に学校生活を過ごす事ができ、一人ひとりの笑顔が輝く学校づくりを進めるためにも、学校組織全体で、以降に示す取組を進めます。

目次

1	いじめ問題に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・	2
	（1） いじめの未然防止	
	（2） いじめの早期発見	
	（3） いじめへの対処	
2	「いじめ対策委員会」の設置・・・・・・・・・・	7
	（1） 役割	
	（2） 構成員	
	（3） 関係する校内委員会等との連携	
	（4） いじめ事案対応フロー図	
3	その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項・・・・・・・・	8
	（1） 基本方針、年間計画の見直し	
	（2） 基本方針、年間計画の公開・説明	
4	いじめ防止等に向けた年間計画・・・・・・・・・・	9
5	その他（資料等）・・・・・・・・・・	11

1 いじめ防止等のための対策の基本的な考え方

いじめ問題に取り組むにあたっては、「いじめ」にはどのような特質があるかを十分に認識し、日々「未然防止」と「早期発見」に取り組むとともに、いじめが認知された場合の「早期対応」に的確に取り組むことが必要であると考えます。法では、「いじめ」を以下のように定義されています。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

本校では、このいじめの定義に基づき、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に関する以下の内容について、組織的に進めます。

(1) いじめの未然防止

いじめはどの子どもにも、どの学校でも、起こりうるものであることを踏まえ、より根本的にいじめの問題を克服するためには、すべての児童（生徒）を対象としたいじめの未然防止の観点重要です。

このため、本校では、すべての児童（生徒）が、より良い人間関係を構築できるような態度を育むことで、いじめを生まない環境づくりを進めます。また、家庭、地域その他の関係者に対し、学校での取り組み内容を説明し、協力を求めることで、地域社会が一体となった取組を進めます。

取組の基本となるのは、児童（生徒）が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中で、安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や学校行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくり、学校づくりを行っていく事であると考えています。学校のあらゆる教育活動の中で、すべての児童が自己存在感を感じ、自己決定の場を与えられ、共感的関係を育てる機会を設けることを大切にし、互いを認め合える人間関係・学校風土の醸成に努めます。加えて、児童（生徒）自らがいじめについて学び、取り組む等の自主的・自治的な活動を積極的に支援し、児童（生徒）一人ひとりが主役となる学校づくりも進めます。

そうした未然防止の取り組みについては、日常的な児童（生徒）の行動の様子や欠席の状況を把握し、その状況に応じ、随時見直しを図ることで、より充実した取組を進めます。

ついで、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① 子どもの主体的な参画

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
a	児童会及び生徒会を主体とした活動の推進	◇1学期と2学期に生徒会が中心となって、SP（スマイルプロジェクト＝全校集会）で「いじめ防止アピール」を実施

b	学校・学級及び個人のいじめ防止に関する取組目標の設定	◇道徳・人権学習・SPを通して、生徒自らが考えた、いじめ防止について発表し合い、そして生徒同士の意見交流から更なる意識の向上を図る
---	----------------------------	---

② 子どもに対する教育・啓発

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
a	子どもの心を豊かにする教育の推進	◇道徳及び人権教育に関する参観の設定
b	自他ともに認め合う人権教育の推進	◇子ども一人一人が主体的に、学び・高め合い・いきいきと活動できる教育の工夫（人権学習の充実：通年）
c	いじめ問題にかかる子どもの解決力を育むための教育の推進	◇1学期…いじめ問題を取り扱う道徳を実施 ◇2学期…命の尊さに関する道徳を実施
d	専門家によるいじめ問題や人権教育等にかかる授業の実施	◇いじめ及び人権等について、PTA 主催で親子での講演・研修会を実施
e	子どもの存在や意見が大切にされる授業づくり・学級づくりの推進	◇各教科で、社会情勢を見ながら学び合い学習を推進 ◇公開授業（研究授業）等を通して、授業を工夫 ◇「くらまね」の活用から、子どもの現状を知り、見守りの強化を図る
f	いじめ防止啓発月間・人権週間における取組	◇1学期と2学期に、いじめ防止啓発月間を設定し、道徳や人権学習を実施 ◇人権標語を校内で掲示
g	思いやりの心を育てる異年齢交流の推進	◇地域の幼児とのふれあい体験を実施（3年：2学期） ◇福祉体験学習を実施（1年：2学期） ◇生徒会活動で、学年を超えた縦割り活動を実施
h	ネット上のいじめを含めた情報モラル教育の推進	◇外部講師による講演会を実施

③ 教員に対する研修・支援

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
a	いじめ対策に関する校内研修の実施及びいじめ対策の取組にかかわる教員体制の整備	◇校内研修会を実施し、学校いじめ防止基本方針の共通理解を図る（1学期） ◇教育支援部会・いじめ対策委員会を週1回定期に開催し、子どもの情報交流・指導方針を確認
b	学校いじめ防止基本方針及び子ども支援コーディネーター等の周知	◇始業式や入学式で子ども支援コーディネーターの紹介と学校通信での掲載で周知（4月） ◇学校いじめ防止基本方針をホームページで公表

c	いじめ事案対応にかか る教員への指導・助言及 び組織的支援体制の充 実	◇子ども支援コーディネーターやOJT推進リーダー及び メンターリーダーによるいじめ防止に関する校内研修を 実施 ◇いじめ対策委員会や教育支援日誌等から、情報共有 (報・連・相)の徹底を図る
---	--	--

④ その他（学校独自の取組）

取組目標
◇教育支援部会・いじめ対策委員会を、週1回定期に開催
◇教育支援日誌（授業の様子を記録）から、生徒の実態を早期に共有

(2) いじめの早期発見

いじめは、大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするものです。しかしながら、いじめやその疑いを見逃してしまうと、より深刻な状況を招いてしまいます。そのようなことから、本校では、たとえささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から学校のいじめ対策委員会が中心となり積極的に対応します。

そのためには、多くの大人が児童（生徒）の小さな変化に気づく、鋭い観察力を高めることが必要です。このため、本校では、日頃から児童（生徒）の様子をしっかりと見守り、教職員間で定期的に共有します。わずかな兆候であっても、背景にいじめがあるのではないかと疑いを持って、いじめ対策委員会で対応について協議します。その上で、いじめを軽視することなく、事実関係に基づいて積極的に認知します。その際、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめを受けた児童（生徒）の立場に立って行います。

また、児童（生徒）または保護者が、抵抗なくいじめに関して相談できるよう、学校は、定期的なアンケート調査や定期的な教育相談を実施し、いじめの実態把握に取り組めます。それとともに、児童（生徒）または保護者が日頃からいじめについて相談しやすい雰囲気づくりに努めます。また、学校が家庭と緊密な連携をすることにより、学校と保護者との間の情報共有をし、児童生徒の状況をきめ細かに把握するよう努めます。

加えて、より多くの大人が児童（生徒）の悩みや相談を受け止めるため、保健室や相談室の利用、関係機関の開設している相談窓口について広く周知するとともに、地域関係団体や保護者に対しても協力を求めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめに関する情報収集

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
-----	------------	------

a	いじめに関する定期的なアンケート調査の実施	◇各学期に、アンケート調査を実施
b	子ども支援コーディネーターを中心としたいじめの疑いを含めた情報の集約	◇週1回の定例会議や事案の認知後、いじめ対策委員会を開催し、情報の一元化と対策を図る
c	いじめが発生するピーク時の校舎内及び校門等における見守り活動の実施	◇休み時間に、教室や学年フロア等でチャンス相談・声掛け相談を実施 ◇下校時は、全職員で下校指導を行い、生徒の様子把握に努める
d	いじめ等の悩みの把握及び教育相談の実施	◇連絡帳を用いたミニ日記等から、子供の様子の把握に努める ◇学期に1回、教育相談を複数名の教師で行う
e	日頃からの家庭との連携及び情報交換の実施	◇学級・学年・学校通信や保健だより等から、学校生活の情報を発信 ◇1・2学期は三者懇談会を基本とし、家庭との情報交換を密に図る
f	ネット上のいじめにかかる保護者との連携強化	◇携帯電話等の情報機器利用のモラルについて出前授業を開催 ◇親子で同じ研修会に参加し、学校と家庭が連携してネットリテラシーの向上に努める

② いじめに関する情報共有

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
a	いじめ事案の情報共有を図るための「いじめ対策委員会」の開催	◇週1回定期にいじめ対策委員会を開催し、いじめ事案の情報共有を図る
b	学年及び校種を越えた情報共有の推進	◇月1回生徒指導の全員研修会を開催し、教職員が子どもの様子と家庭での生活の把握に努める

③ その他（学校独自の取組）

取組目標
◇担任と学年所属教員（＋学年外教員の希望も可）と教育相談を実施 ◇チャンス相談・声掛け相談を常時実施 ◇1学期にSCと全校生徒との面談を実施

(3) いじめへの対処

本校では、教職員がいじめと疑われる場面を発見・通報を受けた場合には、一人で抱え込むことなく、速やかにいじめ対策委員会を中心とした組織で対応をします。被害を受けた児童（生徒）を守り通すとともに、教育的見地から、毅然とした態度で加害児童（生徒）を指導します。その際、謝罪や責任を形式的に問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上等、児童（生徒）の人格の形成に主眼を置いた指導を進めます。

例えば、遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、教職員はその場でその行為を止めます。また、児童（生徒）や保護者から、「いじめではないか」と相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴し、被害を受けている児童（生徒）や相談のあった児童（生徒）の安全を確保します。

特に、インターネット上のいじめへの対応については、大津市および大津市教育委員会が作成している「インターネット上のいじめに関する対応マニュアル」に基づいて対応します。

いじめ対策委員会では、いじめの疑いがあった場合、直ちに情報を共有し、速やかに関係児童（生徒）から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行います。事実確認の結果は、校長が責任を持って大津市教育委員会に報告するとともに、被害・加害児童（生徒）の保護者に連絡します。

なお、児童生徒の生命・身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときや、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきと認めるとき、もしくは、指導を行ってもいじめ行為が止まないときなど、学校がいじめられている児童生徒を徹底して守り通すために必要と判断する場合は、所轄警察署等関係機関や、心理や福祉等の専門家と相談し、連携して対処を進めます。

このため、すべての教員の間で、いじめを把握した場合の対処のあり方について共通理解を図るとともに、迅速かつ的確に対処できるよう、平素から関係機関との連携に努め、情報共有する体制を構築します。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめの対処

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
a	組織的にいじめ事案に対処するための「いじめ対策委員会」における対応	◇いじめ対策委員会の方針に沿って、対象生徒への指導・助言・支援や、保護者への報告（連絡・働きかけ・支援）
b	いじめ事案の解決に向けた対応	◇連絡体制を密に図り、被害者の安全を最優先した上で、被害者の心のケアに努める。 ◇必要に応じて SC や関係機関等の専門家と連携して、支援に務める
c	ネット上のいじめへの対応	◇市教委や専門機関と連携し、専門家派遣を依頼し対応に努める ◇被害・加害の背景や事情に考慮し、保護者と連携しな

		がら対応に努める
d	重大ないじめ事案に関するアンケート調査の実施	◇重大事案が発生した場合、情報の収集にアンケートを実施するなど、速やかに個別面談に努める
e	いじめ事案が生じたときの保護者への情報提供	◇適時・適切に直接面会を基本とし、保護者に情報を伝えるよう努める ◇複数対応を基本とし、保護者との意思の疎通に努める

② その他（学校独自の取組）

取組目標
◇SC や関係機関との連携を密に図る
◇聞き取り等を必ず複数で対応する

2 いじめ対策委員会の設置

本校では、いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、法第 22 条に規定される組織として「いじめ対策委員会」を常設します。その役割等については、以下のとおりとします。

（１）役割

- ア) いじめの防止等の取組の年間計画を作成する
- イ) いじめの防止等の取組について、すべての教職員間で共通理解を図る
- ウ) いじめの防止等の取組の実施、進捗状況の確認を行う
- エ) 児童（生徒）や保護者、地域に対し、いじめの防止等の取組についての情報発信やいじめに関する意識啓発のための取組を行う
- オ) いじめの疑いや児童（生徒）の問題行動などに関する情報の収集と記録、共有を行う
- カ) いじめの疑いに関する情報があった時には緊急会議を開催し、いじめの情報の迅速な共有を図り、教職員や関係のある児童（生徒）等への事実関係の聴取、児童（生徒）に対する支援・指導の体制・対応方針の決定と保護者との連携等の対応を行う
- キ) いじめとして対応すべき事案か否かの判断を行う
- ク) 重大事態に係る調査の母体となり調査を行う
- ケ) P D C A サイクルに基づき、毎年度、いじめの防止等の取組の検証を行うとともに、その結果等を勘案して、必要に応じて学校いじめ防止基本方針の見直しを行う

（２）構成員

いじめ対策委員会の構成員は、管理職、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主事、児童生徒支援加配、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラー

とします。

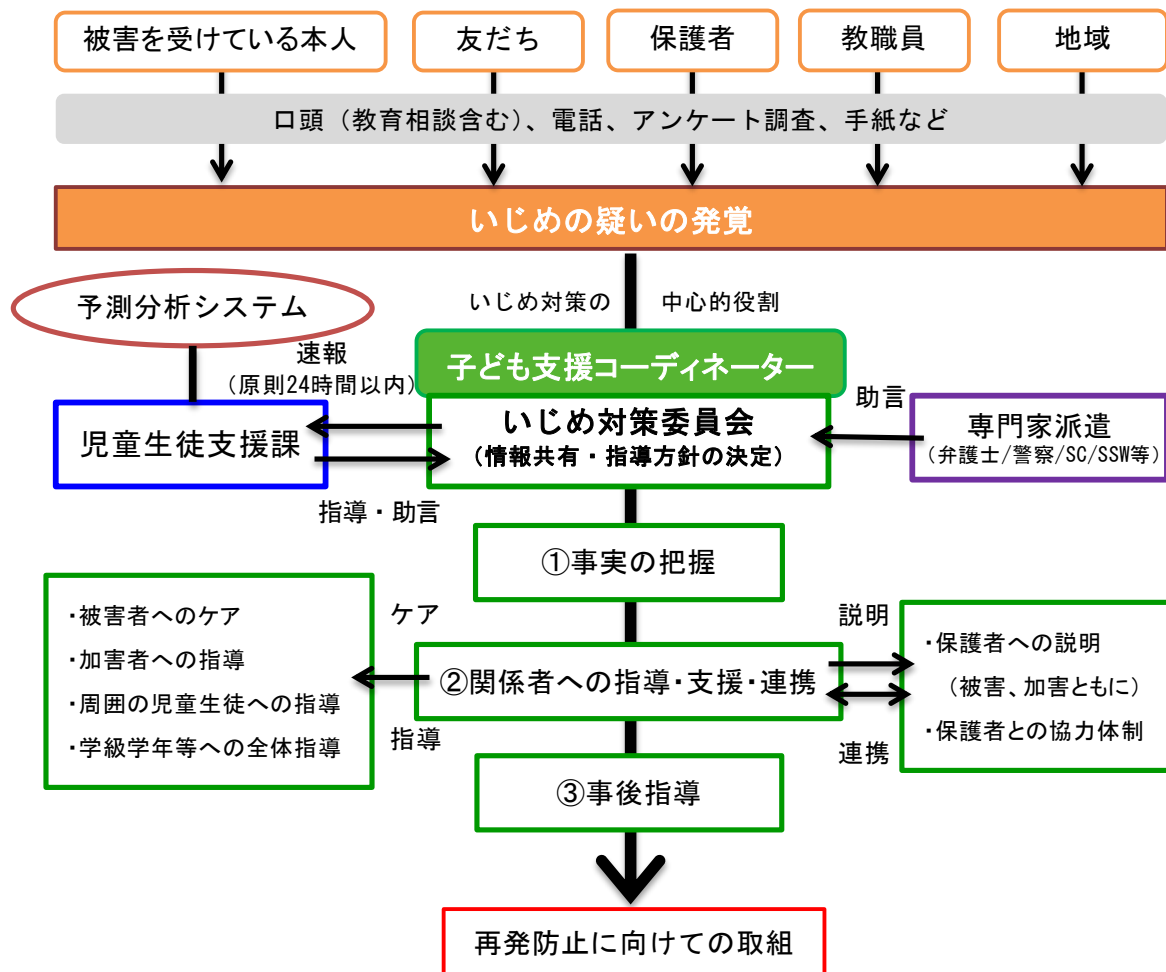
なお、個々の事案に応じて、関係の深い教職員を追加します。

また、事案の性質等、必要に応じて、心理や福祉の専門家、弁護士、医師、警察官（もしくは警察官OB）・教員経験者など外部専門家の参加を得ます。

（３）関係する校内委員会等との連携

いじめの防止等の取組の実施に当たっては、教育支援部会、教育相談部会、人権教育推進委員会等と役割分担し、連携して取り組みます。

（４）いじめ事案対応フロー図



（２）学校のいじめ防止対策全般や基本方針の進捗状況の評価等を協議するため、「拡大いじめ対策委員会」を設置します。

その構成員は校長、教頭、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主事、児童生徒支援加配等の学校教職員の他、PTA会長、自治連合会会長、青少年育成学区民会議会長、主任児童委員等の学校関係者としてします。

３ その他のいじめの防止等のための対策に関する重要事項

(1) 基本方針、年間計画の見直し

具体的な施策ごとに設定した目標について、その進捗状況を定期的に確認し、目標の達成状況（活動実績）を自己評価し、その結果について年度末に大津市教育委員会へ報告しています。また、評価に際しては、目標の達成状況（活動実績）を評価するとともに、それらの取組がいじめ防止にどのような効果があったのかについて考察し、取組内容や方法の見直しを検討します。このような取組を通して、策定した学校基本方針や年間計画をPDCAサイクルに基づき、毎年度見直します。

(2) 基本方針、年間計画の公開・説明

策定した学校基本方針や年間計画は、学校のホームページなどで公開するとともに、年度当初に子どもや保護者、地域関係者にわかりやすく説明します。

4 いじめ防止等に向けた年間計画

月	活動内容・取組	備 考
4	生徒指導全員研修会（①・②・③） いじめ対策委員会（①・②・③） いじめ防止基本方針の確認（①・②・③・④） 家庭訪問（②）	スタート教育相談実施
5	生徒指導全員研修会（①・②・③） いじめ対策委員会（①・②・③） アンケート調査（①・②） 拡大いじめ対策委員会（①・②・③・④）	
6	いじめ防止啓発月間（①・④） 生徒指導全員研修会（①・②・③） いじめ対策委員会（①・②・③） 教育相談（②・③） くらまね（①・②） 学校協力者会議（④）	全学年いじめ問題を扱う道徳実施
7	三者懇談会（④） 生徒指導全員研修会（①・②・③） いじめ対策委員会（①・②・③） いじめ防止アピール（①）	全校集会で、生徒会執行部より「いじめ防止アピール」を実施
8	生徒指導全員研修会（①・②・③） いじめ対策委員会（①・②・③）	特別支援教育にも関連した研修
9	いじめ対策委員会（①・②・③） 生徒指導全員研修会（①・②・③）	スタート教育相談実施
10	いじめ防止啓発月間（①・④） いじめ防止アピール（①） 生徒指導全員研修会（①・②・③） いじめ対策委員会（①・②・③）	命の尊さに関する全校道徳で実施し、「いじめ防止アピール」も実施

	アンケート調査 (①・②) 教育相談 (②・③)	
1 1	生徒指導全員研修会 (①・②・③) いじめ対策委員会 (①・②・③) 教育相談 (②・③)	
1 2	三者懇談会 (④) 生徒指導全員研修会 (①・②・③) いじめ対策委員会 (①・②・③) くらまね (①・②)	人権週間(人権標語作りや発表)
1	アンケート調査 (①・②) 生徒指導全員研修会 (①・②・③) いじめ対策委員会 (①・②・③)	スタート教育相談実施
2	教育相談 (②・③) 生徒指導全員研修会 (①・②・③) いじめ対策委員会 (①・②・③)	
3	生徒指導全員研修会 (①・②・③) いじめ対策委員会 (①・②・③) 拡大いじめ対策委員会 (①・②・③・④) くらまね (①・②)	
年間を通じて	あいさつ運動、自転車庫・下駄箱チェック (①・②) オアシスルームの適宜活用 (①・②) チャンス相談の実施 (①・②) 部活動・下校指導 (①・②)	

※いじめの未然防止に関すること…①

いじめの早期発見に関すること…②

いじめの早期対応に関すること…③

いじめ防止に関する家庭・地域・関係機関等との連携に関すること…④

5. その他（資料等）

伊香中生 SNS ルール

 <p>自分を特定する内容 を SNS に載せない</p>	 <p>大切なことは 直接話す</p>	 <p>書き込む前に相手の 気持ちを考える</p>
 <p>SNS を使用する タイミングを考える</p>	 <p>ネットの情報を 全て信じない</p>	 <p>不確かな情報を 安易に拡散しない</p>

～生徒会～

～スマホ・ゲームにおける



伊香立ルール～

伊香立小中学校運営協議会



一度書き込んだら簡単に消えません



書き込む前に 相手の気持ちを考えよう



ダメダメ使いすぎ 保護者との約束守る



ちよつと待て マナーと時間大丈夫？

～伊香立学区～